

連珠っておもしろい

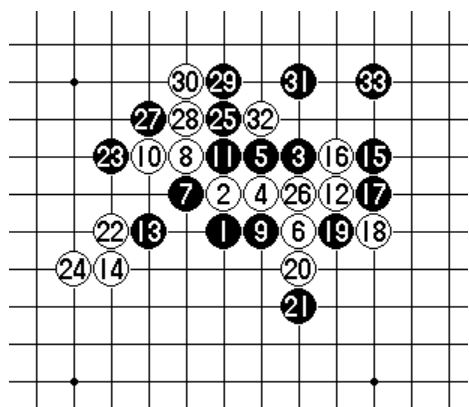
名人 河村典彦

●第12回● 研究っておもしろい？

この連載もいつの間にか2年になってしまった。そろそろネタも尽きてきそうだが、毎回何らかの連珠の情報と息抜きの回想を含めこれからも続けたいと思っている。

今回は、城西連珠会で久々に中村氏と打ったのでその棋譜を取り上げてみたい。中村氏は最近実戦の場には現れないとは言え、実力的にはやはり世界トップだ。読みは衰えていないというのが実感である。

白 中村 茂九段
(途中図) 黒33まで
疎星を指定して、黒を持たされた。メリテイ連珠クラスの土曜日は毎回疎星をやっているのですが、白10で外された。

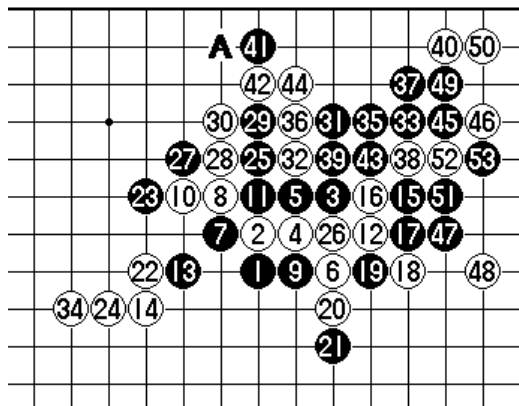


黒11はあまり入りたくない所だが、急所なので止むを得ない。白12をうっかり13では黒16から勝ちがありそう。黒13と引いて15、17の展開は気持ちいいが、黒21が用心しすぎた。すかさず白22に打たれ忙しくなった。なお、この棋譜は連珠世界4月号の城西連珠会日記に載っているが、ここから先はそれを見ただけではわからないと思うので詳しく解説しよう。

黒23は少ない時間を費やして考えた勝負手だが、

当然白も24と欲張ってくる。黒25、27で剣先を下辺に効かそうという狙いだつたが、白も28、30と意地を張った防ぎで応じる。ここまで来たなら、黒は31、33で玉砕するしかない。しかし、これが中村氏の読みになかった含みであった。

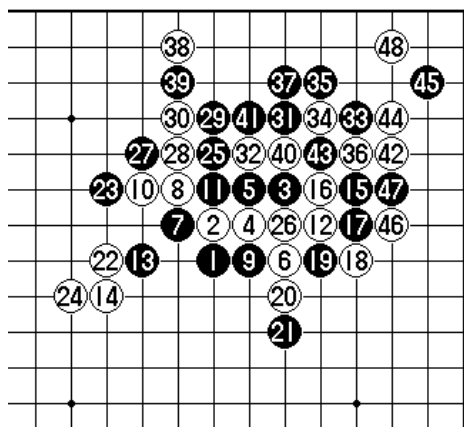
つまり、白34で手を抜けば、



このような長い四追いがあり、黒39に石が入るので白Aの四ノビをしてもノリ手

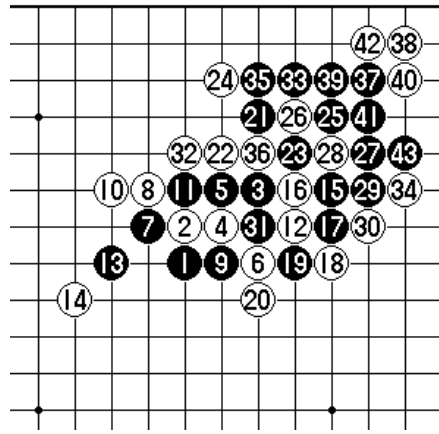
にならない。(他にも四追いがある)

(最終図) 白48以下白勝ち



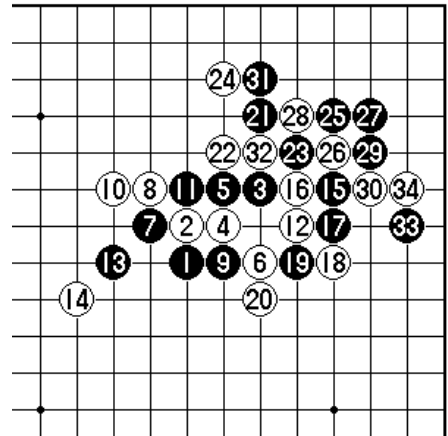
白34と防いできたが、さすがに最善である。次の36も絶対の所で、これできわどく勝てない。私も白38の四ノビが見えておらず、到る所が四々禁になつてしま、上辺で後手を引いてしまったので、投了となった。そこで、黒21の局面に戻って、現時点では呼手が打つてるので、いきなり上辺に展開してはどうか、という

話になった。ここで、21、25と同じように打つと、5、19の二連が生きているのが大きい。



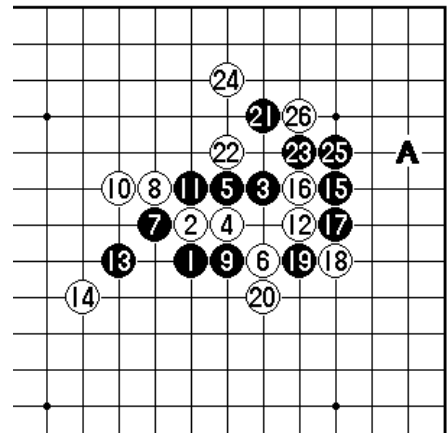
同じように白26と防ぐと、黒27のミセ手が絶好で、何とか勝ちが出そうだ。黒31が最後に物を言ってくる。白30を41なら、もちろん黒31と取った後、34と引けば簡単だ。

ところが、白26で28に止められると、勝ちが出ない。黒27、29と攻めても、白30が急所で勝てない。



前図と比較すると、27と30が入れ替わっており、効率の悪い手を打たされたことになっている。こういう形では、勝ちがあるかないかが非常に重要であるので、しらみつぶしに調べる必要がある。面倒くさいことだが、結論をあやふやにしておくと後で必ずしっぺ返しを喰らうので注意したい。

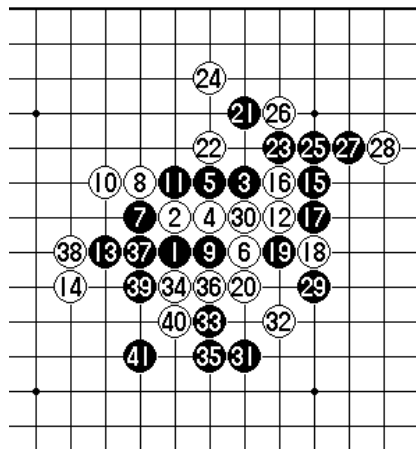
で、黒25を打ち変えてみるのが次の図。対して白26を一路上ならAから簡単な勝ちなのだが、図の26が急所でこれも勝ちが出ない。



ならばと黒25を26なら一路右あたりに止められてもダメだろう。その他いろいろ試してみたが、どうしても勝ちが見つからなかった。こういう作業を中村氏と一緒にやると話が早い。通常の検討の倍以上のスピードでできる。強い人とやると実力が向上するのはこういうところにも原因があるのだろう。

で、ここからが後日談なのだが、その次の週にメリテイの連珠クラスの講師をたまたましていた。その最

後にこの一局を紹介し、たまたま出席していたメリテイらと検討することとなった。彼はいろいろいじくつたが、やっぱり上辺では勝ちが見つかからないよう、すぐに次の代案を示してくれた。



黒29から下辺に展開する構想とは、なかなか思いつかない。普通に止めていたら黒41まであっさり勝たれてしまったが、白36を黒35の左に止めると勝てないなど、まだまだ研究の必要がありそうだ。